

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。	
2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。	<p>このたび、貴省が「光の道構想」についての意見を公募されているのを知りましたので、日ごろから考えていますことを要約し募集に応じさせていただきます。よろしくお願いします。</p> <p>課題として挙げられている「超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態のあり方も含めて、この点をどう考えるか」に対して、ソフトバンク社がこれまでに述べてこられました主張につきまして、私としまして二つの点で意見があります。</p> <p>まず、第一点目です。現場で教育に携わる者として「教育分野でITを導入すれば、教育の質の向上につながる」という単純なものの考え方には、大いに疑問を持っています。</p> <p>「電子教科書」や「電子黒板」の活用も言われていますが、はたして、生徒の学力向上に資することになるのでしょうか。結論から言いますと、それらの活用によって現在危機的な状態にある生徒達の学力の基礎・基本力を確立し向上させる、あるいは生きる力を涵養できると考えるのは無理があるのではないのでしょうか。少なくともあまり大きな効果は期待できないでしょうし、逆効果になる危険性もあります。</p> <p>あくまで受動的な意味においてではありますが、今の生徒達にお仕着せの画一的な教育コンテンツを見せて分かったような気持ちにさせるのは、結果として本当に大切なものを彼らからそぎ落としてしまう危険性が高いと考えています。本当に大切なこととは、現実を実感し、現象の奥にある本質的なものを体感していく、リ</p>

アルな「触感」に基づく教育なのです。化学分野で言えば、試験管を振ったり、反応熱の出入りを直接皮膚を通して感じとったり、自分の手で計量し誤差の概念を操作を通じて体得するといったことです。試験管一つ万足に振ることもできず、溶液の混合や加熱、沈殿物の析出過程の観察や分離もままならない生徒達が大多数である現状への不用意なITの導入は状況を更に悪化させる可能性さえ危惧されます。このことをまずきちんと認識するべきであります。良かれと思ってしたことが教師と生徒の心の琴線がふれあう機会を希薄にし、直接リアルなコミュニケーションの場を奪いかねないのです。

電子教科書はどうでしょう。否定するわけではありませんが、便利さの中に大きな落とし穴がありそうです。教科書がどのような形式になろうと、魔法のような教科書など期待できるものではありません。学習とは何かということに深く思いを寄せれば、実際にそれを使っただけの学習効果もおおいに疑問です。使い勝手がよく膨大なデータとリンクしている教科書は確かに魅力的なものです。利便性を否定するつもりは毛頭ありませんが、内容が充実しておればしておくほど、読み手の想像力を希薄にしてしまうことも多いのです。

電子黒板はどうでしょう。教える立場から言いますと、教師が生徒の反応を見ながら必要と思われることを黒板にひとつずつ書いていき、生徒は教師の考えていることや頭の使い方を感じ取りながら、各自のペースでノートしていく関係が重要なのです。そうすれば内容の意味がより深く頭に入ってくるのです。電子黒板に事前に用意した内容を表示しても、生徒は美しく整理された情報の洪水をただ眺めているだけになる可能性があります。

そもそもデジタル教育コンテンツは、各生徒の習熟レベルに応じて学習を進めていく「公文式」的ドリル教材や早朝、業間、放課後の自習や補充、あるいは、おさらいには適当かもしれませんが、個性がある生徒たちがクラスルームで互いに関わりあいながら学ぶ場では、絶対的な必要性は感じません。将来的に、教育のあり方やシステムが新たに構築されれば、IT機器とデジタルコンテンツを総合的に活用した教育が有効なものとなる可能性は否定しませんが、現状ではうまく活用されるとはとも思えません。現に、今年景気対策として、高等学校ごとにそれぞれ何十台も配置していただいた、50インチディスプレイとそのシステムはほとんど活用されておりません。普通教室に設置すると邪魔になるので特別教室の後ろに放置され埃をかぶっている有様です。このケース同様、デジタルコンテンツを活用した教育のための機器等を導入することになっても、教室の片隅に放置された「不要品」になってしまう可能性が大きいのです。先のディスプレイに使った予算を別な目的に使えなかったのかと悔やまれてなりません。

次に、第二点目です。「NTT東西からアクセス管理会社を設立し、計画的・効率的な光インフラ整備を推進するべきで、管理会社は公的資金の投入なしに採算性の確保も可能」との意見もソフトバンク社から出されていますが、採算性の検証はともかく、そもそも以下の観点から不適切なものではないでしょうか。

ー民間企業にすぎないNTTに、国家の根幹である光通信インフラ全体を構築する責任を押しつけるのは、自由主義あるいは資本主義の考え方と相容れないものであります。NTTに対して、今日までの企業努力を我々のためにはき出せという要求をしているように思えます。見方によっては不当な要求のように感じるのは私だけでしょうか。このような要求は、発展性のある情報通信業界で大きな役割を担うべきNTTの事業活動の活動意欲・インセンティブを奪い、公社化させてしまう可能性もあり弊害が大きいといえます。

光通信インフラ全体につきましては、携帯事業者も含めて、各通信事業者がそれぞれの力量に応じて設備を構築し、様々なサービスを提供する中でユーザ獲得競争を展開することが事業への活力の源泉になると信じます。ユーザにとって、選択可能な多様なサービスが存在する世界が健全な社会と考えます。「光の道」の構築をNTT一社に委ねることで、NTTの設備仕様の制約を受けたサービスしか提供されなくなることは危険な選択です。最悪のケースを考えてみましょう。「光の道」の構築をNTT一社に委ねた結果、そのサービスが国際水準に遅れることになれば、日本の通信網は「ガラパゴス化」してしまうかもしれません、このリスクに対し一体誰が責任を取るのでしょうか、よく勘考すべきです。

NTTだけでなく、電力系事業者等の設備も含めて、既存あるいは今後整備される光通信インフラをいかにネットワーク化し…電力におけるスマートグリッドのように…全体として活用していく方向性を持った提案であれば、まだしも理解が得られるのではないのでしょうか。